

不在村森林所有者にアンケート調査

鳥取・日南町の森林情報伝える

フォレストアカデミージャパン

NPO法人フォレストアカデミージャパン(鳥取県日野郡、矢田治美理事長)は、森林資源の開発・利活用を進め、豊かな環境のまちづくりを目指す。鳥取県の「新しい公共の場づくりのためモデル事業」として、かねてより林地集約化が問題になっていた地元日南町の不在村森林の情報を所有者に発信し、所有者の声を聞き、理解を求める。

日南町の森林面積は町面積340平方キロの90%を占め、そのうち人工林は180平方キロ(62.5%)。蓄積材積は500万立方メートル、年間生長率は15万立方メートルになっている。機械化で増強を進めているが、人工の減少による不在村の森林所有者の増大で、高効率の施業地域が設定できなくなっている。

森林の施業では、規模の小さな山林は所有者による経営管理が困難なため、放置されてきた。地元では不在村森林所有者が多く、森林組合自体の人手不足といった問題なども抱えている。このため、同NPO法人が仲立ちし、林地の集約化で森林組合による管理の委託を進めている。

故郷の森林への思いを深めてもらおうと、「日南の森林だより」やホームページで、森林を取り巻く具体的な情報を発信する。森林組合の名簿などから鳥取県内の都心部、あるいは大阪や東京等に在住している森林所有者に理解を求めている。さらに林地集約、不在村所有財産の適正管理に向け、具体的な方法を確認するために、今年には鳥取大学と連携し不在村山林所有者への聞き取り調査やアンケートを実施した。「自分の財産をどうするか」「自分の山がどこにあるのか分からない」など様々な課題があるなか、一部にはす

ぐにでも山林を手放したいという意向もある。今後、アンケートに基づいて聞き取りを進めている。

また、新事業としてNPO法人フォレストアカデミージャパンが事務局となって、鳥取県農山漁村再生可能エネルギー導入可能性調査支援事業検討会(田川公太郎鳥取大学教授)が8月に設置された。同検討会は県内の土地、水、バイオマス等の資源把握及び再生エネルギー電気を供給する取り組みを調査・検討する。このほか、鳥取県緑の産業再生プロジェクト協議会の日野川流域部会の事務を受託した。